

全国草原再生ネットワーク

草原がつなぐ人・自然・文化

ニュースレター

vol. 17

(Jan., 2014)

<発行> 全国草原再生ネットワーク
<http://sogen-net.jp/>



大内宿に残る茅葺き民家の町並み（福島県南会津郡下郷町）

■新年のあいさつ

(高橋佳孝：全国草原再生ネットワーク会長)

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。日頃より、草原再生ネットワークの活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

昨年は、草原にまつわる喜ばしい出来事がいくつかありました。5月には、草原を利用した持続的な農業のシステムが評価され、静岡県茶草場と阿蘇の草原が「世界農業遺産」に認定されました。草原の草を利用した多彩な農業、美しい景観、希少な草原性動植物、伝統的な農耕文化が国際的に高く評価されました。そのほかにも、阿蘇地域の8市町村が内閣府に申請していた「草原特区」も採択されました。世界文化遺産登録、世界ジオパークの認定へ向けた動きも活発です。そして本年の秋頃には、阿蘇地域において「第10回全国草原サミット・シンポジウム」が開催されることが決定しました。

世界に認められた「日本の草原文化」を自らの手で守り、次の世代に受け渡すために官・民が力を結

集して、従来の枠組みにとらわれない抜本的な解決策を講じて行くことが大切です。さまざまな制度の活用も視野に入れ、多様な担い手・支え手の拡充や草原の新たな利活用の推進に挑戦しなければなりません。全国草原再生ネットワークの活動も、新しい時代に見合った視点や発想に基づき、一歩先を見据えた価値観の創造、活動が求められています。

人々に守り継がれた豊かな自然資源をどのように管理し利用するかは、日本全体の大きな命題ですが、実際の現場は地域にあります。地域再生のきっかけは、地域の皆さんが関心を共有し、共に関わることです。全国草原再生ネットワークとしても、現場で「草原再生」という目標に向けて活動されている皆さんの自信や誇りになり、全国の草原保全を巡る動きが益々盛り上がるよう、微力ながらも努力と工夫を重ねて行く所存です。本年も一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第10回全国草原サミット・シンポジウムの開催決定！

全国草原サミット・シンポジウムは、1995年に大分県久住町で第1回が開催されました。その後、2012年までに計9回が開催され（下表参照）、草原の価値や草原保全に関する取り組みの報告、草原に対する国民の関心を高めることの重要性、行政、地域住民、農畜産業者、都市住民などのパートナーシップの重要性などについて意見交換がなされてきました。

このたび、第10回の全国草原サミット・シンポジウムが、熊本県の阿蘇地区で開催されることが決まりました。日程は秋頃が予定されています。詳細な内容は、近く立ち上げられる予定の実行委員会で協議されるそうです。



これまでのサミットの歩み

- 第1回 1995年 大分県久住町
- 第2回 1997年 島根県大田市
- 第3回 2000年 北海道小清水町
- 第4回 2001年 山口県秋芳町
- 第5回 2002年 熊本県阿蘇郡
- 第6回 2003年 長野県諏訪市
- 第7回 2005年 岡山県蒜山市・鳥取県江府町
- 第8回 2009年 広島県北広島町
- 第9回 2012年 群馬県みなかみ町

■各地からの報告

阿蘇草原再生福岡イベントの報告

(阿蘇草原再生募金事務局)

阿蘇草原再生協議会では、人と生き物が集う阿蘇の草原の魅力とその危機的状況を知ってもらおうと、阿蘇草原再生千年委員会と西日本新聞社との共催で、福岡市内で「草原風物展」、「草原再生シンポジウム」を開催しました。

<第一弾 阿蘇草原の風物展>

日時：11月20日～23日

会場：JR博多駅ビル内マイング広場

○写真やパネルで見る阿蘇草原と草原文化のシンボル「草泊まり」展示

阿蘇草原文化と暮らしのシンボルである「草泊まり」を展示しました。福岡在住の皆さんに「茅の匂い」を体験してほしいと、野焼き支援ボランティアの精鋭の皆さんが、都会のど真ん中で草泊まりを制作しました。来場者のなかで「草泊まり」を知っている方はほとんどなく、くまモンも子供たちも大人

たちもみんな喜んでくれました。さらに、展示された阿蘇の写真やパネルを見た見学者から「きれいなね～」、「草はなつかしいね～」との感想をいただきました。

○ススキのクラフト体験（11月20日、23日、先着30名限定）

ススキを使った工作体験は、2日間でのべ50人の参加があり、ボランティアの指導のもと、短時間で上手にフクロウやほうき（くまモンはくまモン？自身）を作り、持ち帰っていただきました。昭和の半ばまで、草原と密接な暮らしや生活文化が阿蘇地域には存在していたことを、実感いただけたものと思います。



そして、草原に咲く可憐な野の花も「盆花」として、草や茅は無駄なく生活道具や家畜の飼料や住宅資材などとして活用されていたこともお話しました。今、阿蘇地域内外で改めて草を利用するビジネスへの取り組みが始まっています。茅葺き屋根の材料や福島の仮設住宅の断熱材などとして、また、エネルギー材としての研究も続いています。野焼きや放牧利用のほか、野草を多様な用途に利用する方法が実現することで、草原を保全する価値や意義も高まるものと思われます。

今回、写真やパネルを出展協力いただいた皆様には心より感謝申し上げます。短い期間の展示会でしたが、阿蘇の文化と魅力が口コミでさらに広がって行くことを願っています。



<第二弾 草原再生シンポジウム>

日時：12月3日

会場：アクロス福岡

○第一部<講演会>

「いのち輝く草原が、九州観光の中心から放つ魅力とは！」

講師：高橋佳孝（阿蘇草原再生協議会会長）

基調講演では、阿蘇の草原が永く人と自然の共生のなかで守り継がれている点、歴史的な背景と今日的な意義を中心に、水源涵養力、生物多様性の保全の場であること、人々を癒す優美な景観、二酸化炭素の地中固定化など、多面的な機能と多様な恵みもたらしていることを濃密に語っていただきました。そして現在では、担い手不足によって危機的な状況に直面していること、その一方で、支え手の広がり、熊本県を中核に官民連携の盛り上がりなど、最新の動きが報告されました。その中で、担い手の後継者育成が急務であり、環境保全の重要な役割を社会的に評価する事の必要性が強調されました。

阿蘇の草原自体が生命力を持ち、人間を含めて多様な生き物たちに生命力を与えているのが何よりの魅力であり、こうした人為的な営みの継続こそが、多くの観光客を惹きつけ続けることになるだろう、とまとめられました。



○第二部<座談会>

「みんなで草原ば守るばい！！」

出演：農民・阿蘇代表「阿蘇市町古閑牧野組合長 市原啓吉」

草原生きもの係・阿蘇代表「南阿蘇ビジターセンター 井上真希」

合言葉は恩返し・福岡代表「野焼き支援ボランティア 池上龍太郎」

阿蘇草原再生千年委員会委員長 坂本 正

座長 九州大学工学研究院教授 島谷幸宏

4人のパネリストと座長との、ぶっつけ本番の座談会。草原との関わりをそれぞれの立場から語り始めると、いっきに熱い思いがほとばしりでて、会場へと浸透していきました。現状克服への格闘ぶりに、会場からは応援のメッセージが数多く寄せられ、なかには、草原再生シール生産者の野菜を求める発言もありました。島谷先生には、軽妙な司会ぶりで会場からの声をたくさん拾っていただきました。フロアからは今後の実現を期待させる意見が交わされ、終始おおいに盛り上がった座談会でした。



○スペシャルイベント くまモンが応援に登場

くまモンはやはりスゴイ！3回も登場して、会場をわかしてくれました。くまモンの本格的パフォーマンスは初めて見る方が多かったようですが、元気で愛らしい仕草に魅了されました。最後は、会場の皆さん全員がくまモンと一緒に体操を踊りだし、あまりの賑やかさに本来のイベントを忘れてしまうほどでした。

○閉会あいさつ 川崎隆生西日本新聞社社長

講演と賑やかな議論を受けて、出演者に対して、会場参加者全員で、阿蘇草原再生への理解共有が始まったことに対して謝辞が述べられました。「こんなに和んだ雰囲気のシンポジウムは初めてだ!!」ということでした。

今回のシンポジウムの来場者は180名。シンポジウムの会場内でも、草泊まりや野の花の写真やパネルが飾られました。阿蘇は熊本だけのものではなく、九州の阿蘇でもあります。ボランティアや募金など九州全体の力で阿蘇を盛り上げられたら、本当に心強い限りです。

大内宿 茅刈り茅葺き体験ワークショップに参加しました

(横田弘子・潤一郎：東京都在住)

10月16～17日にかけて、福島県南会津郡下郷町の大内宿で開催された、茅刈り茅葺き体験ワークショップに参加しました。このイベントは、草原再生ネットワークとも相互会員になっている日本茅葺き文化協会さんが主催され、大内宿では昨年秋に続き2度目の開催です。

大内宿は、江戸時代に会津若松と日光を結ぶ会津西街道の宿場町として整備され、参勤交代の大名行列などで賑わいました。道の両側に重厚な茅葺き屋根が連なり、今も当時の面影を残しています。1970年代に生活の近代化を求めてトタン屋根に葺き替えられたこともあります。1981年に国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されてからは、屋根の葺き直しや街道のアスファルト撤去が進み、今や観光地として絶大な人気を誇っています。

大内宿では、相互扶助組織である「結の会」がまだ残っており、この美しい街並みを後世に残していこうと努力されています。その中で重要な役割を果たしているのが、旧大内分校の校舎に設けられた道場です。教室の中にミニチュアの茅葺き屋根をつくり、毎週水曜日の夜に村の若者たちが棟梁のもと、茅葺き屋根の組み立ての訓練を繰り返すことで、その技術を伝承していこうとされています。茅葺き茅



刈ワークショップでは、この道場をお借りして、我々も茅葺き体験をすることができました。

まずは廊下で縄の結び方を練習しました。茅葺き屋根に使う最も基本的で最も難しい「男結び」は、この地域では「いぼ結び」と呼びます。

次にミニチュア屋根で実践です。茅を積み、竹で横一列を押さえ、茅をかきわけて下の層の竹に縄をかけて、竹同士をぎゅっと結び合わせます。ガギボウと呼ばれる道具で断面を叩いて整え、鋏で切り揃えます。サクサクと心地いい作業ですが、切り口を綺麗に平面に揃えることの何と難しいことか！



夜は、茅葺き文化講座として、ネットワーク会員の平舘氏から「茅刈りが守る小さないのち」、結いの会の吉村氏からは住民の方々が受け継いできた伝統行事にける想いなどをお伺いすることができました。

翌日は、集落共有の茅場で茅刈を体験しました。実は初雪を迎えた直後だったのですが、茅刈当日は天気にも恵まれ、寒いながらも楽しく作業することができました。今回は約30名の参加者で、15駄の茅を刈ることができ、集落の方にも喜んでいただけたとのことでした。

ススキ原見学で入山料徴収の試みが行われました

(事務局)

静岡県東伊豆町にある細野高原では、昨秋に、ススキ草原を訪れる観光客から入山料を取る試みが行われました。細野高原は、伊豆半島の天城山山系のひとつ三筋山の東側に広がる草原です。2008年9月には全国草原シンポジウムの会場にもなっていま

す。ススキ原の面積は約150haで、目の前には相模湾が広がる眺望の良さも魅力で、最近では、箱根の仙石原よりも広い草原を売りに、観光地としてPR中です(仙石原については、本号の国安氏の報告も参照下さい)。10月1日から行われる「秋のすすき



イベント」で、観光客から 500 円の入山料が徴収されるようになりました。入山料は、トイレなどの設備整備、最寄り駅からの無料シャトルバスの運行費用などにあてる予定とのことです。詳しくは 2013 年 9 月 30 日の朝日新聞静岡版で紹介されています。

その後の状況については、この草原をフィールドとしておられ、このたびの情報をお知らせ下さった、ネットワーク理事である塩坂氏によると、入山料の徴収は大成功に終わったとのことです。氏によると、会場まで大型バスが入れるように道路を整備し、会

場には 100 台の駐車場が新設された、温泉旅館からはマイクロバスが出て去年の 5 倍の人出があった、最終日にはパラグライダーの大会を開催し 100 機のグライダーが花を添えた、とのこと。また、草原を維持するために、費用と労力がかかること、生態系の維持に意味があること、生物多様性が維持されること等、参加者に理解していただいた、春には山菜狩りも有料で開催される、とのこと。

今回の話題は、塩坂氏より頂いた情報や新聞記事をもとに提供しておりますので、お礼申し上げます。



■「全国草原リレー」(第 6 回)

ネットワークの会員を中心に、持ち回りで、各地の草原を紹介するのが「草原リレー」です。第 6 回は、理事でもある国安氏に、箱根仙石原の草原につ

て紹介して頂きます。今回の執筆者が、次回の執筆者へと原稿をリレーしていきます。

■箱根仙石原スキ草原■

草原サミットに関わり始めた平成 10 年頃、「箱根仙石原」でも野焼きが行われているという話を聞いて、頭にすぐ浮かんだのは国の天然記念物にも指定されている箱根湿生花園です。昭和 53 年から 3 年間富士箱根伊豆国立公園の沼津地区に駐在をしていましたが、当時この公園全体を統括していた事務所が箱根の湖尻にあり、年に数回箱根の事務所に出向いていました。この時、仙石原湿原の乾燥化が進行し湿原植物の衰退が起きていると聞いており、湿原植生保護の目的で野焼きが行われているものとばかり思い込んでいました。

この間違いに気付いたのはそれから 10 年以上も後の事。平成 18 年に環境省を退職し小田急電鉄に再就職、5 年程勤めましたが、小田急電鉄で

(国安俊夫：ネットワーク理事)

は沿線の自然にふれあっていただく事を目的に、自然観察会を年に数回開催しておりました。その一つとして箱根の仙石原から湖尻間で開催すべくコース設定調査を行ったことがあります。たまたま旧道と思われた道を進みましたが、突然広々



としたススキ草原の頭の部分に出て、この場所が話に聞いていた野焼きの場所だと気付きました。

この原稿を書くに当たって平成 12 年 6 月に北海道小清水町で開催された第 3 回草原サミットの報告書を読み返したところ、箱根湿性花園の井上様の発表記録が載っていました。それによりますと、昭和 45 年を最後に中止されていた野焼きが、ススキ草原の景観保護を目的に平成元年から再開されたとあります。このサミットには私も出席したので、この報告も聞いていたはずですが、忘れてしまっていたのですね。

残念ながら私は毎年 3 月に実施されている野焼き自身に立ち会ったことはありませんが、3 月末にこの近くを通ると黒く焼けこげた跡が広が

り、野焼きが行われたことが判ります。また、草原の真ん中を東西に通過する道路上に消防車が並んでいる写真と新聞記事を見た記憶もあります。ここは神奈川県内で残されている最大規模のススキ草原であることもあり、秋には多くの方が見学に訪れる観光スポットでもあります。

ところで、こんなに早く再度原稿担当が回ってくるとは思っていませんでした。原稿依頼をいただいてから、今回の仙石原を初めとして寒風山、小清水原生花園、渡瀬遊水池などいくつか候補地は頭に浮かびましたが、手持ちの写真が見つかりませんでした。今後のことを考えると、これからは意識して写真を撮っておく必要があると反省した次第です。

■書籍などの紹介

『乙女高原大百科』

乙女高原ファンクラブ結成 10 周年記念として、これまでに出版されたメールマガジンを本として編集されたものです。希望者は実費（2000 円）で入手可能です。問合せ先は、乙女高原ファンクラブ事務局まで。

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 第 1 章 春の自然観察 | 第 7 章 乙女高原フォーラム・座談会 |
| 第 2 章 夏の自然観察 | 第 8 章 乙女高原案内人 |
| 第 3 章 秋の自然観察 | 第 9 章 マルハナバチ・アサギマダラ調べ隊 |
| 第 4 章 冬の自然観察 | 第 10 章 乙女高原を知る |
| 第 5 章 草刈りボランティアとイタドリ刈り | 第 11 章 乙女高原を守る |
| 第 6 章 遊歩道づくり | |



『三瓶山国立公園指定 50 周年記念誌 三瓶山とともに』

島根県大田市の三瓶山では、国立公園指定 50 周年を記念して、地元の古老の方たちからの聞き語りをまとめた書籍が発行されました。かつての草原の様子、牛たちと暮らした日々などが綴られています。定価は 1000 円で、問合せ先は NPO 法人緑と水の連絡会議まで。

『ASO 草原ファンクラブ』

阿蘇草原再生協議会は、阿蘇の草原を未来に残すため、県内外に支援を呼びかける「ASO 草原ファンクラブ」をスタートさせました。賛同者に会員登録（来年 11 月まで入会無料）してもらい、特典を与



える一方、募金への協力を依頼するものです。

阿蘇地域7市町村内の飲食店や観光施設、旅館など161協力店で会員カード(写真)を示せば、割引や飲み物サービスなどの特典が受けられます。熊本県外の会員を含め、阿蘇のリピーターを増やすこと

で、阿蘇観光の目玉である草原を守る意識を高めることがねらいです。協力店では、店の地図情報などを紹介するQRコード付きのガイドブックも配布しています。

■草原をめぐる動き(2014年1月~4月)

- 1/5 茅刈り体験会ヨシ編「カヤカル2014@淀川」(場所:大阪市淀川区淀川十三干潟ヨシ原、連絡先:茅葺屋)
- 1/19 淡海ヨシ刈り(場所:高島市新旭町針江付近、連絡先:公益財団法人淡海環境保全財団)
- 1/25 第2回東京楽習会「小貝川の野焼きを体験する」(場所:茨城県常総市 小貝川河川敷、連絡先:森林塾青水)
- 1/25 若草山山焼き(場所:奈良県奈良市奈良公園、連絡先:奈良県奈良公園室)
- 1/25-26 朝霧高原茅葺き体験隊(場所:静岡県富士宮市、連絡先:朝霧高原活性化委員会)
- 1/26 菅生沼の野焼き(場所:茨城県坂東市菅生沼、連絡先:茨城県自然博物館)
- 1/26 第13回乙女高原フォーラム(場所:山梨市民会館、連絡先:乙女高原ファンクラブ)
- 2/2 茅刈り体験会ススキ編「カヤカル2014@神戸落合」(場所:兵庫県神戸市須磨ニュータウン内茅場、連絡先:茅葺屋)
- 2/2 川内峠野焼き(場所:長崎県平戸市川内峠、連絡先:平戸市観光課)
- 2/8 西の湖ヨシ刈り体験(場所:滋賀県近江八幡市、連絡先:東近江水環境自治協議会)
- 2/8-9 野焼き・輪地切り支援ボランティア初心者研修(第1回)(場所:熊本県阿蘇市内、連絡先:公益法人阿蘇グリーンストック) 2/15-16に第2回

- 2/9 大室山山焼き(場所:静岡県伊東市、連絡先:大室山リフト)
 - 2/16 秋吉台山焼き(場所:山口県美祢市秋吉台、連絡先:美祢市役所)
同日の夜には、「秋吉台野火の祭典」もあり
 - 3/1 ヨシ焼き(場所:山口県山口市阿知須 きらら浜 自然観察公園、連絡先:同公園ビジターセンター)
 - 3/16 秋吉台追加の山焼き(場所:山口県美祢市秋吉台、連絡先:秋吉台草原ふれあいプロジェクト事務局(秋吉台エコ・ミュージアム))
 - 3/25 三瓶山西の原火入れ(場所:島根県大田市三瓶山、連絡先:大田市役所)
 - 4/5 塩塚高原野焼き(場所:愛媛県四国中央市・徳島県三好市、連絡先:三好市役所)
 - 4月上旬 深入山山焼きまつり(場所:広島県山県郡安芸太田町、連絡先:安芸太田町観光協会)
 - 4/11 雲月山山焼き(場所:広島県山県郡北広島町、連絡先:西中国山地自然史研究会)
 - 4/18 千町原山焼き(場所:広島県山県郡北広島町、連絡先:西中国山地自然史研究会)
 - 4月下旬 茅葺き体験会「カヤマル2014@美山砂」木(場所:京都府南丹市美山町高野地区 砂木集落、連絡先:茅葺屋)
- ※上記以外の情報もホームページで随時公開しています。

全国草原再生ネットワーク ニュースレター vol.17 2014年1月号

全国草原再生ネットワーク事務局

〒694-0064 島根県大田市大田町大田イ 376-1

NPO 法人緑と水の連絡会議内 Tel. 0854-82-2727 Fax. 0854-84-0262

【編集後記】第10回の全国草原サミット・シンポジウムが阿蘇で開催されることに決定しました。詳細な内容はこれから決まるようですので、ネットワークでもホームページやニュースレターなどで情報を提供していきます。全国から多くの関係者が集い、有意義な会になるよう、会員のみならずもご協力をお願いいたします。